

◆幼児とパパママで楽しむ自然あそび

幼児と親を対象としたプログラムです。夏の雑木林で元気いっぱい遊びましょう。

日 時：7月20日(土) 10:00~12:00
 対 象：4~6歳の未就学児と保護者 定員：20名
 参加費：100円(保険代)
 要申込：先着順です。

◆親子はじめての自然観察

~みどり森 夜の生きもの観察会~

夜のみどり森を探検して、セミの羽化やカブトムシなどを観察する予定です。(軽食持参となります)

日 時：8月3日(土) 17:00~20:00
 対 象：小学生と保護者 定員：20名(抽選)
 参加費：100円(保険代)
 〆 切：7月23日まで。抽選の結果は27日までにお知らせ。

◆大人の自然観察会~初級者編・夏~

動植物豊かなみどり森で、自然界の営みを再発見。初級者向けです。

日 時：8月31日(土) 9:30~12:00
 対 象：中学生以上 定員：20名
 参加費：100円(保険代)
 要申込：7月31日から受付開始します

◆里山体験教室・特別編
池のかいほりをしよう!!

西久保湿地のため池の水を抜いて、かいほり(池の底の泥の取り除き)と生き物探しを行います。昔から里山で行われてきたかいほりを体験してみませんか?

日 時：9月7日(土) 10:00~12:30
 対 象：小学生以上(小学生は保護者同伴) 定員：20名
 参加費：100円(保険代)
 要申込：8月1日から受付を開始します。

◆育てて!絞って!菜の花づくし
~菜の花の栽培から油しぼりまで~

たねまきから収穫、さらには油の採集にいたるまで、菜の花をいろいろな形で利用してみましょう。9月から来年の夏(7月)までの体験です。

日 時：9月28日、10月26日、来年3月22日、5月31日、7月6日、7月末(全6回)
 (いずれも土曜日 10:00~15:00)
 対 象：小学生以上(小学生は保護者同伴) 定員：20名
 参加費：3000円(全6回分、保険代・材料費)
 要申込：8月28日から受付を開始します。

★イベントのお問合わせ・申し込み★

電話(TEL 04-2934-4396)で博物館までご連絡ください。また、公式ホームページからお申し込みできます。イベント内容等の詳細は、お気軽にお問合せください。みなさんの申込みをお待ちしております!

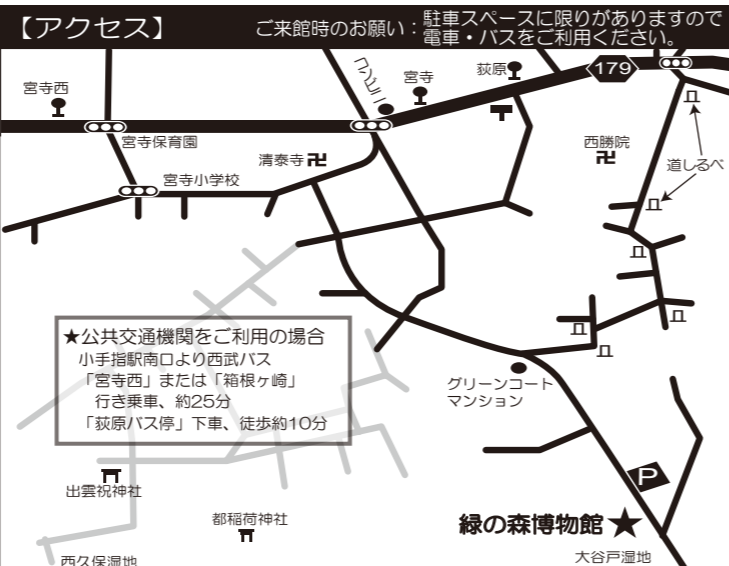
博物館からのお知らせ

これからの時期、ちびっ子の大好きなカブトムシやクワガタも多く見かけるようになります。みどり森は自然全てが展示物となっていますので、動植物の採集はご遠慮ください。来年の夏も多くの生きものに出会えるように、ご協力をお願いします。もしも、悪質な昆虫採集者やハチの巣等を見つけたら、案内所までお知らせください。

◆緑の森博物館の利用ルール◆

緑の森博物館では、以下の7つのルールを守って楽しく過ごしていただくようお願いしています。

- 1) 植物や野鳥、小動物、昆虫等の生き物をむやみにとったり、傷つけたりしないでください。
- 2) 他から持ち込んだ動植物(外来種)を放さないでください。
- 3) 原則として広場や観察路以外の場所に入らないでください。
- 4) 犬などのペットを放さないでください。(フンの後始末もしっかりと行いましょう)
- 5) 車道以外の場所には、自転車やバイクで入らないでください。
- 6) バーベキューや花火など火を使わないでください。
- 7) ゴミは持ち帰りましょう。



開館時間 9:00~17:00 【入館無料】
 休館日 月曜日、祝日の翌日(その日が祝日の場合をのぞく)
 【公式HP】 <http://saitama-midorinomori.jp/>
 指定管理者 株式会社自然教育研究センター

発行:さいたま緑の森博物館
 発行年月:2013年7月
 住所:〒358-0014 埼玉県入間市宮寺889-1
 TEL/FAX: 04-2934-4396

樹液より 冷や汗流れる オオスズメ
うるしかぶれ さわった記憶は2日前
「マムシ注意」看板だけでひきかえす



樹液をなめるオオスズメバチ

今号は、左の川柳を読んで、心当たりのある方にピッタリの特集です。

ブーン!という重低音をひびかせ飛んでくるスズメバチや、葉っぱをさわろうとのかいた指の先にいる毛虫など。野外で気を付けたい生き物を、中面の特集でご紹介します。人間がその生き物について知れば、今までの心配は思い過ごしに変わるものです。

みどり森が最もにぎわうこの季節。いろいろな生き物との出会いが楽しい季節でもありますので、是非とも熟読の上、楽しんでくださいね!

みどり森のおすすめスポット (7月~9月)

7月から9月にかけて、夏から秋の野草が咲き、セミの鳴き声もニイニイゼミからはじまりツクツクボウシにおわるまで、1年でもっともにぎやかなみどり森の、おすすめスポットをご紹介します。

★自然すべてが展示物である「みどり森」では動植物の採取は禁止です。

だれもが観察できるように、捕まえた生き物は持ち帰らずに元の場所に返してあげましょう。

雑木林広場

7月中旬ごろまでオオトラノオの白色の花が見頃です。下旬には、オトギリソウがところどころに開花します。天気の良い日には、ヤマトタマムシが飛んでいるかもしれません。

西久保湿地

7月中旬から8月にかけて又トラノオの白い花が開花します。9月中旬から下旬にかけてツリフネソウやミゾソバなどが開花します。他にも、田んぼでは8月上旬にイネの花が咲きます。その後も成長した稲穂を見ることができます。

多目的広場

8月末まで、コナラの樹液にいろいろな昆虫が集まってきます。樹液にはスズメバチも寄ってきます。

水鳥の池

7月上旬、池の土手にヤブカンゾウのオレンジ色の花が開花します。

大谷戸湿地

7月上旬から中旬にかけてチダケサシのピンク色のお花が開花します。水辺にはオオシオカラトンボやコシアキトンボ、オニヤンマも飛びます。



特集：これであなたも付き合いじょうず！

野外で注意したい生き物たち

何かにさされたりかぶれたり、うっかりいたい目に合うことは、野外ではめずらしいことではありませんが、できればさけないものです。

今回の特集では、みどり森でとくに注意したい生き物（植物をふくむ）は、いったいどんな生き物なのか？どうやって注意すればいいのか？をご紹介します！
ぜひ、これを読んで、うまく付き合いできるようになってくださいね！

【1】まずはあわてないで！ ～スズメバチ～

【見られる時期】 6月～11月下旬
【とくに注意したい時期】 8月下旬～11月 ※巣作りのピークは9～10月

体長4センチにもなるオオスズメバチをはじめ、キイロスズメバチ、ヒメスズメバチなどが生息しています。

巣はハチの種類によって、のき下や木の枝にぶら下げて作られるものと、オオスズメバチのように地中に作られるものがあります。

スズメバチはこわいと思われがちですが、自然の中では、他の虫たちの幼虫などを食べる肉食であるため、生態系のバランスをとる重要な役わりをもつ生き物です。スズメバチがいなくなるとイモムシや毛虫がウジャウジャ…。



オオスズメバチの成虫
女王バチの全長：37～48mm

◆ハチにさされないための3か条

- 1) ふりはらわれない
- 2) 急に動かない
- 3) 巣に近づかない



【2】さわらぬ神にたたりなし ～ヤマウルシ～

【見られる時期】 葉がついているのは、4月下旬～12月中旬
【とくに注意したい時期】 4月～11月

ヤマウルシは、園路わきに生えている植物です。

特ちょうは、葉が奇数羽状複葉（きすうじょうふくよう）でじくが赤っぽいことです。同じウルシの仲間にヌルデという植物もあり、これにかぶれる人もいます。ヌルデの葉のじくには翼（よく：羽根のようなもの）があるのが特ちょうです。

◆ウルシにかぶれないためには？

さわらない、近づかない！

葉の形をよく覚えて、さわらない事が第一です。
人によっては、その日の体調によっても、かぶれやすくなるので、近づかないようにしましょう！



奇数羽状複葉
※じつはこれで1枚の葉です。
葉の軸に対して対になって
小葉がつき、先端に小葉が
1枚がつきます。

ヤマウルシ 葉の長さ：20～40cm
樹高：3～8m

【3】のこされた毒毛にもご用心 ～ドクガのなかま～

【見られる時期】 通年
【とくに注意したい時期】 8月下旬～11月

ドクガの種類もさまざまですが、ツバキ科の木につくチャドクガがよく発生します。毒毛にさわると赤くはれ、ひどくかゆくなるので、毒毛にさわらないことが鉄則です。

ドクガは成虫だけでなく、卵からさなぎまで全てに毒毛があります。とくに幼虫の時期は、まとまった数がいるため注意が必要です。



チャドクガの幼虫
葉のうらにならんでいるところ。黒とオレンジのラインが目立ちます。



チャドクガの成虫
大きさ：15～17mm
開張：25～35mm

◆ドクガにかぶれないためには？

チャノキやツバキの木近くではガサガサしない！

幼虫の毒毛は落ちやすいので、幼虫が発生した木にさわると、幼虫がいなくても皮ふえんをおこす場合がありますので、なるべく近づかないようにしましょう。

【4】うっかりふまなければ害なし ～ニホンマムシ～

【見られる時期】 6月～11月下旬
【とくに注意したい時期】 8月下旬～10月



ニホンマムシ
全長：45～80cm

だれでも名前は知っている有名なヘビですが、実際に出会うことは少ないめずらしいヘビです。しめり気のある草むらに多いようです。

うっかり踏みつけたりしない限りはかみつかれませんが、メスはおなかのこどもを守るため（ヘビなのに、おなかの中で卵をかえし、出産します！）、秋（9月ごろから）は気があらくなるといいます。マムシの毒は、かまれたらすぐに死んでしまうような毒ではありません。

◆マムシにかぶれないための3か条

- 1) 園路外に入らない
- 2) ぼうでたたいたりつかまえようとしない
- 3) 足元をしっかりとチェック



参考文献：
庭・畑の昆虫（中山周平著・小学館）/日本の両生類・爬虫類（松井孝爾著・小学館）
知っておきたいアウトドア危険・有毒生物完全マニュアル（篠永哲監修・学研）